

# 本年もどうぞよろしく申し上げます

## 「子どもたちの健やかな成長を願う」

本年も、子どもたちの健やかな成長を願って、教職員一同、力を合わせてがんばります。ご支援ご協力を、よろしく願いいたします。

3学期が始まり、子どもたちも元気に登校してきました。大きな事故もなく、みんなで新しい学期を迎えられたことをたいへん嬉しく思います。

卯（兎）は、その穏やかな様子から平和や豊かさ、跳躍する姿から飛躍を表します。今年、子どもたちが大きく飛躍できますようにと、教職員が一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。

始業式での子どもたちの様子を見ていますと、一人ひとりが新しい年への意欲に燃えています。私たちも、この子どもたちのためにがんばらねばと改めて意を強くした次第です。

3学期は、子どもたちの進学、進級の時期です。一人ひとりの子どもたちが、今年度の成長を確かめ、大きな夢と希望をもって、人間関係を大切にしながら力強く歩を進めてほしいと思ひます。



## 1月・2月・3月の行事予定



1月



2月



3月

- 7日(金) 始業式
- 10日(月) 成人の日
- 11日(月) 給食開始  
身体測定(高)
- 12日(水) 身体測定(中)
- 13日(木) 身体測定(低)  
校内書き初め展~21日
- 14日(金) 避難訓練
- 17日(月) 委員会活動
- 18日(火) たてわり遊び
- 19日(水) ブラッシング指導
- 20日(木) 3年CAP指導
- 24日(月) 給食感謝週間  
クラブ活動
- 31日(月) クラブ活動

- 1日(火) 全校朝会
- 3日(木) 新入生一日入学
- 7日(月) 委員会活動
- 8日(火) Welcome 能中
- 11日(金) 建国記念の日
- 14日(月) クラブ活動
- 18日(金) 学習参観  
教育講演会

- 1日(火) 体重測定(低)
- 2日(水) 体重測定(中)
- 3日(木) 6年生を送る会
- 4日(金) 体重測定(高)  
大掃除
- 7日(月) 委員会活動
- 9日(水) 地区児童会
- 17日(木) 卒業式準備
- 18日(金) 卒業証書授与式
- 21日(月) 春分の日
- 22日(火) 給食修了
- 24日(木) 修了式
- 31日(木) 離任式

都合により日程等が変更になる場合がありますので、各月の学年通信等でお確かめください。

## ランドセルとともに卒業した男の子

今から何年前になるのでしょうか。以前6年生を担当していた時のことです。

ランドセルを背負うバンドに紐を継ぎ足して使っていた男の子がいました。

その子は、卒業の日も、紐を継ぎ足したランドセルを背負って登校しました。いや、その子だけではなく、多くの子がランドセルを背負って登校してきたのです。そして、ランドセルの中に卒業証書を入れて校門を出て行きました。

どの子の顔からも、誇らしげで喜びにあふれた笑みが見られました。

それには、次のような話があります・・・・・・・・・・。

高学年になり、ランドセルで登校することが「ダサイ」と見られる風潮があり、多くの子が、まだ使えるのにランドセルを使わなくなり、それぞれが自由なカバンを使うようになってきた頃のことです。

ある日、ある男の子の「紐で継ぎ足したランドセル」を見た友達が、「お前のランドセルは、ぼろい!」「新しいのを買ってもらえや!」と言ったことがありました。しかし、男の子は、次の日もその次の日も「紐を継ぎ足したランドセル」で登校して来ました。すると、また友達は、「お前の家は、買ってもらえないのか・・・。」と言ったそうです。このことを、男の子は、日記に次のように書いてきました。

ぼくは、友達に、「お前のランドセルはぼろい!」とか「そんなぼろいランドセルをいつまで使っているんや!」とか「お前の家は貧乏なんやろ!」とか言われている。しかし、ぼくは、新しいカバンを買ってもらえないわけでもないし、このランドセルをぼろいとは思っていない。紐を継ぎ足しているのは、体の方が大きくなって、バンドに手を通すことが無理になってきたためだ。そのとき、家の人は、新しいカバンを買ってやろうと言ってくれた。

でも、ぼくは、卒業まで、このランドセルを使いたいと思って、買ってもらわなかった。でも、窮屈には変わらないから紐を継ぎ足して使っている。こんな「ダサイ」ことをして、と思うかもしれないが、ぼくにとっては、それでも使いたいランドセルなんだ。

このランドセルは、今は亡くなってしまったが、ぼくのおじいちゃんが、入学祝いにとくれたものなんだ。小さい頃は、「こんな重い物」とか「ダサイなあ」と思ったこともあったが、おじいちゃんが亡くなってからは、このランドセルは、やさしかったおじいちゃんの思い出となってしまった。

入学の前に、「おめでとう」と言ってくれた、このランドセル。入学の日、玄関でにこにこしながら見送ってくれたおじいちゃんの顔を、今でも思い出す。だから、ぼくは、このランドセルをおじいちゃんの思い出とともに大切にしたい。そして、このランドセルに卒業証書を入れて卒業したい。

まだ使えるのにランドセルをやめて好きなカバンにしていくのや、「お前のランドセルはダサイ」なんて言う友達がいるが、「君たちだって、誰かにお祝いとしてもらったのだろう。使えなくなったのなら仕方がないが、カッコよさだけでやめてしまうのなら、ぼくのダサイランドセルの方がカッコ良い」と言ってやりたい・・・・・・・・・・と、書かれていました。

このことを学級で話すと、学級の友達は悪口を言わなくなったことはもちろんのことですが、次の日からランドセルをつけて登校してきました。

「ぼくだって、親戚の人にももらったんや、ぼくも卒業まで使う」とのこと。

それから、一人二人と・・・、ランドセルで登校してくる子が増えて来ました。そして、卒業式の日、家族や親戚の人たちの想いのつまったランドセルにいっぱい小学校生活の思い出と卒業証書をつめて巣立って行きました。

今は、物がありふれて、粗末にしている時代です。でも、男の子や学級の友達の心は、いつまでも大切にしたいものです。

